

年頭所感

生涯を完結でききる空の港まち成田へ

新年あけましておめでとうございませす

市民の皆様には平成24年の新春を健やかに
かにお迎えのこととお慶び申し上げます。
今年辰年です。辰は動物に当てはめ
ますと竜ですが、なぜ辰だけが十二支の
中で想像上の動物になったのかは未だに
議論の的であり、定説はないようです。
中国では古来、竜は神獣・靈獣であり、
皇帝の象徴とされてきました。また、英
雄や豪傑の象徴ともされ、その鳴き声で
雷雲や嵐を呼び、竜巻となって天空に昇
り自在に飛翔するといわれています。

「竜の雲を得る如し」ということわざ
がありますが、これは、竜が雲を得て天
に昇るように、英雄や豪傑が機を得て盛
んに活躍するさまを例えたものです。
私も、天に昇る竜にあやかっつて、主要
事業や諸課題が山積する市政に果敢に挑
み、さらなる飛躍をする年としたいと
思っております。

**大震災からの復旧・復興
そしてさらなる飛躍と発展へ**

さて、市長二期目のスタートとなった
昨年は、初心に返り、市のさらなる発展
と市民の皆様幸せのため、「成田から
日本を元気にしよう」という気概をもつ
て、本市の未来のために豊かさを実感で
きるまちづくりを目指し、市政を進めて
まいりました。

そのような中、3月11日に発生した東
日本大震災は、広範囲にわたり甚大な被
害をもたらし、加えて、東京電力福島第
一原子力発電所の事故に伴う放射性物質



成田市長 小泉一成

の放出により、全国の産業、経済活動にも深刻な影響を及ぼしております。

本市におきましても、最大震度6弱を記録し、人的な被害、家屋の損壊などがありました。大規模な被害には至りませんでした。しかしながら、首都圏各地で高濃度の放射線量が観測されており、健康への被害、自然環境への影響などが危惧されております。

このような中で、市民の皆様への不安の解消と健康で安全・安心な生活環境の確保、特に、成長期の子どもの健康を守ることを念頭に置き、保育園、幼稚園、小中学校、公園などにおいて、放射線量の定期的な測定を実施するとともに、必要に応じて除染作業を実施しております。また、学校給食につきましても、サンプリング調査を毎日実施するための放射能測定装置を導入することといたしました。

さらに、農産物につきましても、生産者と消費者の双方に広がる不安を解消し、根拠のない風評被害を防止するためにも、市として独自の検査体制を構築し、計画的な検査を実施していくとともに、生産者が自らの農産物を持ち込み、その安全確認を行うことも支援してまいります。

震災発生から間もなく10カ月が過ぎようとしておりますが、被災地の実情を各種報道により、また、私自身も現地を訪れ、実際に肌身で感じましたことは、被災地はもちろん、日本全国それぞれの地域の絆の重要性が一層明らかになったと

いうことであります。

本市におきましては、被災地から避難されてきた方々の受け入れや東北復興支援成田市民号の実施などの復興支援を行ってきたところですが、被災地、そして日本の復旧・復興には、まだまだ多くの時間がかかるものと思われまます。

この難局を乗り越えるためには、国や地方自治体だけの力だけでは足りるものではなく、また、一人一人の力では限界

空港のポテンシャルを活かしたまちづくり

成田空港は、平成22年10月に合意された30万回容量拡大に向け、施設整備なども進んでいるところですが、空港容量の拡大は、新たな航空機騒音の影響を生じさせることとなります。発着回数の増加に伴う体感騒音の拡大による生活環境の悪化も懸念されることから、騒音地区の騒音対策などの一層の充実に努めてまいります。また、成田スカイアクセスの開業による都心とのアクセス強化、北千葉道路、圏央道の整備の進捗など、本市のさらなる発展につながる条件が整いつつある一方で、羽田空港の国際化に伴い利用客が空港を選ぶ時代が到来するとともに、東日本大震災の影響により旅客数が大きく落ち込むなど、不透明な状況もみられます。

成田空港を取り巻く情勢は厳しいもの

があります。

復旧・復興に不可欠なものは、被災地に暮らす方々の地域の絆、そしてまた、被災者の方々を直接的、あるいは間接的な形で支援する、本市をはじめとする全国各地の絆であります。

私自身も、市政を預かる市長といたしまして、日本の復旧・復興、そして、本市のさらなる飛躍と発展のため、今後とも全力を尽くしてまいります。

があります。格安航空会社(LCC)が成田空港へ就航を開始するなど、新たな展開も見られることから、このチャンスを見逃さず、成田空港のポテンシャルを活かした地域づくりを進めてまいりたいと考えております。

安心して子どもを産み育てることのできる地域づくり

都市化や核家族化の進行、地域社会における地縁的なつながりの希薄化などにより、子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、子育てに負担や不安を抱く方が増えております。

本市では、保育園や児童ホームの快適な環境の整備とその充実、医療相談ほつとライン事業などの子育て支援の取り組みのほか、昨年4月からは子どもの医療

費の助成を、中学3年生まで拡充いたしました。さらに、安心して子どもを産み、育てることのできる地域づくりを目指し、子育て支援策の充実に取り組んでまいります。

市民ニーズを的確に捉えた施策の実践

市役所は最大のサービス業との認識のもと、利便性の高い市役所を実現するため、昨年10月には、住所の異動や戸籍の届け出に関連して発生する各種手続きをはじめ、各種証明書の発行などを一カ所で行うことができる総合窓口を設置し、さらに、毎月第2・第4日曜日に実施していた休日の窓口サービスを、11月から毎週日曜日の実施へと拡充するなど、窓口サービスのさらなる充実を図ったところでありまます。

本年も、駅前再開発事業、学校適正配置事業などの事業を推進するとともに、市民ニーズを的確に捉えた施策を実践するなかで、新たな時代における、本市のさらなる発展と成田市民13万人、一人一人の幸せを目指し、温かみと優しい思いやりをもった「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりの実現に努めてまいります。

市民の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。